

2019 年度事業報告

1 活動の成果

1.1 脳性麻痺に対する横断的医療の基礎作り

- 第1回 CP フォーラムを開催：小児科、整形外科、リハビリテーション科の医師、PT, OT, ST および看護師、義肢装具士等多くの職種が参加し、症例検討を通じて連携医療のあり方を認識した
- 大阪、千葉にてセミナーを開催：地域の多職種に対するセミナーおよび市民公開講座を行い、知識の普及と地域連携の育成を行った

1.2 国際標準医療の導入

- 第1回 CP フォーラムに米国コロンビア大学から5人の講師を招聘し、世界標準の医療を紹介した
- 理事がアメリカ脳性麻痺・発達医学会（AACPDM）に参加し、国内に向けて知識の伝達を行った
- CPCHILD の導入：今までほとんど目を向けられていなかった脳性麻痺児・者の QOL を評価する手段として、CPCHILD を松本理事が和訳し、会員が分担して日本における信頼性、妥当性を検討した。その成果は AACPDM で発表された。

2 事業の詳細

2.1 第1回 CP フォーラム（大阪）

- 会期：2019年3月2日～3日
- 会場：新大阪丸ビル別館
- プログラム：別掲
- 参加者：203人（内訳下表）

職種別		
医師	小児科	55
	整形外科	21
	リハビリテーション科	6
療法士	理学療法士	39
	作業療法士	19
	言語聴覚士	2
看護師		9
その他、不明		52

地域別			
北海道	12	近畿	95
東北	20	中国	6
関東	16	四国	2
北陸	1	九州	25
中部	18	その他	8

2.2 脳性麻痺治療セミナー＋市民公開講座（大阪）共催

- 会期：2019年7月6日～7日
- 会場：ポバース記念病院
- 参加者：医師・療法士・看護師 55人（セミナー）、患者・家族を含む市民 32人（公開講座）
- セミナーの目的：医師と療法士の連携を進める
- セミナーの内容：脳性麻痺の基礎知識・介入原則に関する講義、小グループでの模擬症例検討会（リハを含めた介入の立案・討議）、小児神経・整形外科・心理に関する講義
- 市民公開講座の内容：QOLの評価の過程で得られた脳性麻痺児・者の心理的な問題について

2.3 千葉県こどものリハビリ多職種勉強会（千葉）共催

- 会期：2019年10月19日
- 会場：千葉県千葉リハビリテーションセンター
- 参加者：医師・療法士・看護師・保育士・児童発達支援員 90人
- 内容：脳性麻痺の包括的介入、整形外科治療、リハビリテーションに関する講義、小グループでの模擬症例検討会（リハを含めた介入の立案・討議）

2.4 日本語版 CPCHILD の有用性に関する多施設共同研究

- 会員が所属する多施設で計 80 名に対して日本語版 CPCHILD を施行し、その信頼性と妥当性を検討した結果をアメリカ脳性麻痺・発達医学会にて発表した

2.5 ホームページ作成

- 特定非営利活動法人障がい者就労支援の会が運営する「あかり家」に作成を委託して開設
- <https://www.jacpdm.org/>

3 事業実施体制

3.1 会議に関する事項

- 通常総会：2019年3月3日（新大阪丸ビル別館）
 - ✓ 平成30年度事業報告、決算報告の承認
 - ✓ 令和元年度事業計画、活動予算の承認
- 理事会
 - ✓ 第1回理事会：2019年3月3日（大阪）
 - ✓ 第2回理事会：2019年5月31日（福岡）

3.2 事務局体制

- こここハウス医療福祉センター内
- 事務局長：松村 伸寿

3.3 会員

- 正会員 86名（医師57名、他職種29名）
- 賛助会員 10名（個人3名、団体7法人）